

今日のシライ中

本の翼

白井中学校図書室から VOL.10

七夕も過ぎ、いよいよ夏本番の季節となりました。日本には、1月、2月・・・という呼び名の代わりに、「月の異名」と呼ばれる美しい日本語があります。ちなみに、7月は「文月」八月は「葉月」です。さて、図書室が再開され、少しずつ日常も戻ってきました。今月は、夏休み前特別貸し出しも予定しています。そんな図書室から本の紹介です。

『神様』 川上 弘美

なんだか紹介される本、小説、物語、少ないんじゃない？そう思っているあなた、よく気づきましたね。その通りです。そんなあなたのために、今日は「小説」の紹介です。芥川賞をはじめ、数々の文学賞に輝く、川上弘美さんの初期の短編集です。表題作の『神様』は、次のように始まります。「くまにさそわれて散歩に出る。」えっ？くま？どういう場面？なぜ？普通の小説なら、「それは、かくかくしかじかの事情による。」等、きっと説明があるでしょう。しかし、この作家の作品は、そんなことは全くの問題外でございます。そこが楽しい！そこが不思議！そして、読むうちに、ああ、説明なんていらぬな、と合点がいくのです。例えば、『花野』「この時刻でこの場所ならばたぶんそうだと思っていたが、振り返ると、やはり叔父が立っていた。五年前に死んだ叔父である。」その叔父さんが当たり前のように「元気だったか？」と聞き、饅頭を一個差し出すのです。どうですか？続きが気になりませんか？一つの話が20頁くらいと、読みやすいのもおすすめポイントです。ちなみに作者は、生物学科卒業、高校の理科の先生だった、と異色です。だから、面白いのかな？



『アイスプラネット』 椎名 誠

2年生の国語の教科書に、同名の作品が掲載されています。もともと作者が、教科書のために書き下ろした作品でしたが、新しく組み立て、本作品が完成しました。登場人物や、設定は変わりませんが、教科書の作品に増して、世界中の不思議な話、面白いエピソード、心に残る言葉が記されています。「ほら話」でない証拠の写真もたくさん載っています。例えば、「大きくして考えてみる方法」「小さくして考えてみる方法」「集団脳って何だ」等々、小見出しだけでは何のことやらさっぱりわからない、そんな話題でいっぱいの本です。確かに「ぐうちゃん」の話は面白い。でも、それだけではないことは、教科書の作品からもわかりますね。そして、大好きなフレーズ「不思議がいっぱい」です。皆さんも、「ぼく」と一緒に「不思議アタマ」全開で、楽しい旅に出かけませんか？

